

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

薬学部

部局長名：

檜垣 和孝

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>①-1 目標</p> <p>○教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上を含む)について 分野別コーディネータ制により、授業科目、教育内容の見直しを行い、より実のあるカリキュラムの構築と教育向上を図ると共に、60分授業・クォーター制に対応する専門・教養教育のカリキュラムの具現化について、全力を尽くす。学生・同僚・自己の三者による授業評価を行い、ベストティーチャーの選出を含め、得られた結果を授業改善に役立てる。</p> <p>○教育方法・内容について FDフォーラム等のFD活動を通じて、より効率的な教授法についての検討を行う。また、大学病院薬剤部と実務家教員を中心に、実務実習の実施を含め、より実践的かつ機動的な薬剤師(薬学科)教育の実現を目指す。</p> <p>○教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について 薬学科：国家試験の合格率を向上させることを念頭に、教育内容を見直すとともに、学習支援を行う。創薬科学科：応用力(研究力)の醸成につながる基礎学力の充実を図る。引き続き、「キャリアパスセミナー」や「就職セミナー」を開催し、就職支援にと努める。</p> <p>○学生支援について 担任制を十分に活用し、学生の学習・生活支援を継続する。学生生活部会を充実させ、学生の学習・生活に関する相談に積極的に応じる。</p>	<p>自己評価</p> <p>○教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上を含む)について ・全国の薬学教育評価機構との齟齬を解消すべく、60分授業4学期制の実施計画に全力をあげ、これを完遂した。 ・ピアレビューの推進をはかるため、積極的に授業撮像を行い(3月現在、16科目、75講)(http://pharm.okayama-u.ac.jp/system/webdir/dir/Lecture/)、3年以内に就任した教員に授業参観報告書を求めた(9名の教員が提出)。 ・厳格な授業評価の一環として立案したルーブリック評価をいち早く取り入れ、ルーブリックの作成・精選とともに、「卒業論文実習」については本方法で評価した(http://pharm.okayama-u.ac.jp/edu/rubric/)。 ・教員のインセンティブ向上の方法として、ベストティーチャー制度を設け、繰り返し選出されている教員に、「授業の達人」として「FDフォーラム」(全教員出席義務)でティーチングチップスの話題を提供させた。</p> <p>○教育方法・内容について ○教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について ・先の撮像データをラーニング予復習用の資料として全学生に公開した。本ページは今年度は、27,263回のヒット数があった。特に、2月には、薬剤師国家試験対策として、8,396回のヒット数に上った。</p>
<p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>○三者(学生・同僚・自己)による授業評価結果からの検証と授業改善 ○シラバス(活用・記述例) ○国家試験合格率(薬学科)、就職率(創薬科学科・大学院)</p>	
<p>②研究領域</p> <p>②-1 目標</p> <p>○研究水準及び研究成果等について ・各種臨床薬学分野及び基礎薬学系の研究強化を図る。 ○研究実施体制等の整備について ・科研費申請書を校正・指導する等の方法で、科研費等外部資金獲得に努める。 ・共同機器(室)、オープンラボの利用の透明化・受益者負担をはかる。 ・新たな、部局内横断型の大型研究費獲得に向けた検討を開始する。</p> <p>○その他 ・「研究コンプライアンス」「研究倫理」についての指導・周知を継続的に行う。 ・価値の高い研究業績を挙げ、薬学部(及び全学)ホームページ等で広報する</p>	<p>自己評価</p> <p>○研究水準及び研究成果等について 各種臨床薬学分野の発展に全面的に協力・展開した。神戸大学病院との共同研究も順調に推移した</p> <p>○研究実施体制等の整備について ・若手研究者を中心に、科研費申請書を校正・指導する等の方法で、科研費等外部資金獲得に努めた。 ・共同機器(室)、オープンラボの利用の透明化・受益者負担をはかり学部運営に反映させた。 ・新たな、部局内横断型の大型研究費獲得に向けた検討として、これまでのインド拠点研究に、難治性感染症疾患を統合した形での研究提案に向けた検討を行った。</p> <p>○その他 ・「研究コンプライアンス」「研究倫理」についての指導・周知を、前年度に引き続き継続的に実施した。 ・価値の高い高インパクトファクターの雑誌に掲載された研究業績を、薬学部(及び全学)ホームページ等で広報した。</p>
<p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>○論文・著書等の研究業績の状況 ○競争的外部資金受入状況 ○学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト(SSリスト) ○若手教員、女性教員、外国人教員の採用状況</p>	
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>③-1 目標</p> <p>○地域社会との連携、社会貢献：一般社会人、薬剤師を対象とした公開講座の実施により、薬学について、広く啓蒙することに努める。また、高校生に対しても講演会を実施し、科学、生物、そして薬学についての魅力を知ってもらうよう努める。</p> <p>○国際交流・協力：韓国・成均館大学との連携を進める。アジアの有力大学の薬学部との新たな連携に向けた交流を推進する。また、インド拠点での活動を継続的に発展させる。</p> <p>○その他：薬剤師の卒後教育を、地域の職能団体と連携して実施する。</p>	<p>自己評価</p> <p>○地域社会との連携、社会貢献：一般社会人および薬剤師を対象とした公開講座を実施し、薬剤師の卒後教育、また一般社会人に対する薬学への認識度を高めることに努めた。更に、高校生を対象とした公開講演会を実施し、薬学に対する意識の向上に努めた。</p> <p>○国際交流・協力：韓国・成均館大学との間で、ダブルディグリー制度を実施することで合意した。また、キャンパス・アジア事業により、成均館大学の学生を招き、交流を深めた。また、インド拠点での活動をさらに進めた。</p> <p>○その他：大学機能強化戦略経費および国立14大学の連携によって実施している先導的薬剤師養成事業を活用した講演会および交流事業を開催し、薬剤師会との連携事業・卒後教育を進めた。</p>
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>○公開講演会等の実施状況 ○地域貢献・国際貢献への協力の状況</p>	
<p>【総括記述欄】</p> <p>教育、研究、社会貢献領域、いずれも当初目標を良好に達成したものと評価している。来年度は、教育領域では、60分授業・クォーター制における的確な教育実施を推し進めると共に、引き続き、教育の質の向上を目指す。研究面では、科学研究費補助金申請の指導等を通じ、臨床薬学分野、基礎薬学系の研究強化を促す。社会貢献領域においては、公開講座による高校生、一般社会人、薬剤師に対する薬学に関する啓蒙を続けていくとともに、アジアの国々を中心に、国際交流の促進を図る。</p>	